

高野参詣道(二)

本号では、八月号に引き続き、高野参詣道についてご紹介いたします。奥の「出合の地藏さん」から北へ土生方面に進む主要な参詣道は、現在の吉備インターゴルフの手前を旧道沿いに東へ進み、小さな峠を越えて土生のお地藏様に至ります。ここは、地藏の辻つじという地名が示すように、古くから街道の交差点であったと考えられます。ここから旧道沿いに東に進んだ参詣道は、役場吉備庁舎前の交差点から東へ農免道路に入ります。

七月号で紹介した高瀬の庚申塔こうしんとうを過ぎ、さらに東に三〇〇メートルほど進むと西丹生図の名石寺・石ヶ谷地藏への入り口にたどり着きます。ここには、石灯籠いしとうろうや庚申塔とともに道標が残されています。道標は、三〇センチあまりの小さな



まほこ型の石柱で、長年の風雨にさらされ、表面の文字は薄れていますが、「右八山道、左か(こ)うや道」と刻まれています。石ヶ谷地藏は、県内でも珍しい磨崖石仏として町指定の文化財です。寺を守る老いた尼のために空海が彫ったという伝承があり、主に子安地藏として信仰されています。参詣道は、ここから東丹生図・垣倉を経て、御霊神社へと至ります。

御霊神社は、縁起によると寛治四年(一〇九〇)熊野詣に立ち寄られた堀河天皇が、この地域に吉備ゆかりの場所が多いことを知り、吉備真備の功績をたたえ、五町四方の境内を寄進したことに始まるとされます。御霊神社前の参詣道は、かつては神事として競馬を行った馬場であり、昭和二〇年代の航空写真には、参詣道の松並木が残るなどかつての風情が感じられます。

